

平成28年度

# 事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

## 目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
	（1）郵政博物館活動	1
	（2）博物館の交流活動	2
	（3）資料センター活動	2
3	前島密賞の贈呈事業	3
4	会報「通信文化」の発行事業	3
5	文化活動の運営事業	4
	（1）文化講演会の開催等	5
	（2）青少年ペンフレンドクラブ(PFC)への活動支援	6
	（3）社会貢献活動の実施	6
6	土地・建物賃貸事業	6
7	会員に対する諸施策	6
	（1）記念品等の贈呈	6
	（2）「郵政博物館」入館料の割引	6
	（3）叙勲祝賀会(会費制)の開催	6
	（4）新年賀詞交歓会(会費制)の開催	6
8	中西重思・遺児育英基金の管理・運営	7
9	団体傷害保険等の取扱	7
10	会員増加対策	7

1 1 役員会議等開催状況	.....	8
(1) 理事会	.....	8
(2) 評議員会	.....	9
1 2 業務等の見直し	.....	9
○ 「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	.....	9

## 1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に「郵政博物館資料センター」を設置している。

## 2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンして3年目を迎えた。

「展示」、「収集・保存、調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

### (1) 郵政博物館活動

常設展示場では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示を行っている。

企画展示場では、重要文化財をはじめとする貴重なコレクションの展示を行ったほか、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした、特別展(企画展)を以下のとおり、年間を通して5回開催した。また、多目的スペースにおいても、時季に応じた各種のイベントを開催した。

郵政博物館の平成28年度の入館者は59,460名、開館日数は345日で、一日平均172名であった。

#### ア 特別展(企画展)開催状況

No	特別展名	期間	開催日数	入館者数(人)
1	簡易生命保険誕生100年記念・扇面原画展「一竹内栖鳳から東山魁夷、平山郁夫まで一美をあふぐ 華麗なる巨匠たちの扇の世界展」	平成28年4月9日～ 6月26日	76	12,191
2	夏休みこどもイベント 「かわいいティディベア」展	平成28年7月16日～ 8月28日	43	12,815
3	企画展「切手でみる星の物語展」	平成28年9月10日～ 11月27日	75	12,885
4	企画展「年賀状展-春を寿ぐ-」	平成28年12月10日 ～ 平成29年1月15日	34	6,040
5	企画展「郵政博物館秘蔵コレクション 日本郵趣切手展」	平成29年1月28日～ 4月9日	70	10,405

## イ 多目的スペースでの主なイベント開催状況

No	主催者	イベント名	期間
1	郵政博物館	ゴールデンウィークイベント 「博物館で体験！ワークショップ」	4月30日(土) ～5月8日(日)
2	郵政博物館	新収蔵資料展－万国「小」博覧会－	6月4日(土) ～7月3日(日)
3	Tomoart (協力：郵政博物館)	チャック＋くま＝ チャックま展	7月6日(水)～ 7月18日(月祝)
4	郵政博物館 日本郵趣連合等	全日本切手展2016 第1会場：すみだ産業会館、 第2会場：郵政博物館	7月22日(金) ～7月24日(日)
5	郵政博物館	ハロウィンイベント 「Twinkle★Halloween」	9月17日(土) ～10月30日(日)
6	郵政博物館	春休みイベント 「春休みに郵政博物館で遊ぼう！」	3月25日(土) ～4月9日(日)

郵政博物館以外では、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)において、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。

### (2) 博物館の交流活動

当協会では、協会会員サービスの観点も含め、海外の郵政資料施設・郵政博物館との交流事業として、広く参加者を募った視察旅行を企画して、相互の歴史・文化の交流を深める活動を行った。

平成28年11月14日～同17日 韓国郵政博物館ほか 参加者 15人

平成29年 2月28日～3月3日 台湾郵政博物館ほか 参加者 14人

また、墨田区における地域活動として、区内に所在する5つの博物館\*と連携した「すみだ企業博物館連携協議会」を立ち上げたほか、昨年11月開館した「すみだ北斎美術館」との連携等により、地域振興・活性化施策の推進を図っている。

※当館ほか、花王ミュージアム、セイコーミュージアム、たばこと塩の博物館、東武博物館

### (3) 資料センター活動

#### ア 資料の収集・保存、調査研究事業活動

資料の収集・保存は、あらゆる博物館活動の基盤となる重要な活動であり、昨今のネット情報社会に対応するため、収蔵資料のデジタル化を推進し、ネット上で公開した。

調査研究については、不特定多数の方から関心を持たれ、評価されることを目指した通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。

(ア) 郵政歴史文化研究会の開催(第1～第5分科会および特別研究等)

(イ) 研究紀要の発行(第8号)

(ウ) その他調査研究・修復・保存整理の実施等

## イ 文化・教育普及、生涯学習支援

日本郵政グループや報道関係者、他の博物館・美術館、研究者等に対して積極的に収蔵資料の撮影や閲覧、取材等に対応して照会回答を行ったほか、通信文化資料の有効活用のために、資料貸出（56件）やほか早稲田大学などの外部機関で講演会などを積極的に行った。

No.	項目	件数
A	貸出	56件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	69件
C	特別閲覧	60件
D	取材・照会回答	257件
E	原稿提供・監修	44件

また、教育・普及活動の一端として、大学在学中の博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行っているほか、日本郵政グループの社員研修などへの協力も実施した。

## 3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした逓信事業の創始者である前島密の功績を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。以来、同分野において顕著な功績のあった方々1,030名(団体を含む。)に贈呈して、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

平成28年度の前島密賞(第62回)については、例年同様に各推薦機関(総務省、日本郵政、NTT、NHK、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、テレコムサービス協会、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟)から推薦を受けることとして実施した。

平成28年7月22日に募集要綱をHP上で公表するとともに、9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会の議を経て32名(うち共同研究22名、1団体を含む。)の受賞者を決定し、本年4月11日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。

なお、受賞者32名の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、協会のHPでも公表した。

## 4 会報「通信文化」の発行事業

記事内容については、読者の約6割を占める郵政グループ現役社員に一層役立つものとするため、5月号から女性社員の活躍の実情を紹介するコーナー「女性活躍の現場レポート」を設け、毎月、郵便局等での女性の仕事での活躍、家庭や子育てとの両立の問題などをレポートした。

また、郵政グループの経営関連の記事を増強したほか、マネジメントに関する記事も多く掲載した。

健康問題については、広く読者全体に最も関心の高いところから、4月から、東京逓信病院の専門医が毎月交代で執筆する「ドクターに聞く 病気と健康」を掲載し、読者からは好評を得た。

また、読者への還元として、当選者に各地の名産品等が当たる「読者プレゼント」を6月号から実施。8月号、9月号では「熊本地震復興支援」として、熊本県の名産品を景品とした。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介し、いずれも読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載・同梱する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。広告料収入は昨年度とほぼ同じであった。

年間12回 732,000部発行 (月平均61,000部)

発行月	特集記事	執筆者又は話し手
28年 4月	岡野裕基金記念講演会 現代のマネジメントに求められるもの	(株)スコラ・コンサルト 柴田昌治
5月	第61回前島密賞受賞記念講演 錯綜する膨大な災害情報を瞬時に整理して伝える	情報通信研究機構 大竹清敬
6月	執筆 賢くなるコンピュータとどう付き合うか	情報未来創研 代表 稲田修一
7月	執筆 郵政三社株の同時上場・市場の評価をどう見るか	京都大学大学院経済学研究科教授 藤井秀樹
8月	岡野裕基金記念講演会 英雄 真田幸村はこうして創られた	大阪大谷大学 文学部教授 高橋圭一
10月	岡野裕基金記念講演会 自分が変われば組織が変わる 価値創造のパラダイム	人とホスピタリティ研究所代表 高野登
12月	全国女性郵便局長の集い(東京大会) つなげよう 夢と希望に輝く未来へ 岡野裕基金記念講演会 ことばの力~美しい日本語を大切に~	東京大会実行委員ほか・日本郵便女性活躍室 元文藝春秋各誌編集長 高橋一清
29年 1月	新春囲碁座談会 女流プロ棋士が語る囲碁の魅力と現代の課題	日本棋院 常務理事 小林千寿 原幸子 重野由紀 日本郵便 一木美穂 ほか
2月	座談会 韓国と郵便の道をたどる旅	江原廣子 関口孝司郎 塚田為康 星名定雄 森本哲夫
3月	地方創生座談会 地域活性化と郵便局	小野寺武 佐村知子 澤尚幸 一木美穂

## 5 文化活動の運営事業

### (1) 文化講演会の開催等

本協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、以下のとおり全国各地において、「文化講演会」を18会場/回、総収客数 2,471 人の参加を得て開催するとともに、そのほか手紙教室等についても47会場/回、総収客数 2,700 人の参加を得て文化活動を行った。

ア 文化講演会等

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加数
北海道	28.11. 8	文化講演会「公社・公益事業会社と株式会社の間-CSR からみる企業の公益性-」	北海学園大学 教授 小坂 直人 氏	札幌市	170 名
関東	29. 2.11	年金セミナー 「セカンドライフを考えてみる」	税理士・社会保険労務士 佐藤 正明 氏	さいたま市	35 名
東京	28.10. 7	文化講演会 ウィークエンドセミナー 「勇気づけのリーダーシップ」	心理学博士 岩井 俊憲 氏	新宿区	90 名
	28.10.19	文化講演会 「心と心を結ぶ言葉の力」	落語家 三遊亭 好楽 氏	港区	270 名
	28.11. 5	文化講演会 「歴史に学ぶ リーダーの条件」	歴史家・作家 加来 耕三 氏	新宿区	160 名
	28.11.17	文化講演会「リーダーの条件～一流選手から学んだこと～」	野球解説者 佐野 慈紀 氏	新宿区	140 名
南関東	29. 3.13	文化講演会「仕事ができる人はなぜこの話し方をするのか」	傾聴し方研究所 代表 櫻井 弘 氏	川崎市	70 名
信越	28. 6.18	文化講演会 「英雄 真田幸村はこうして創られた」	大阪大谷大学 教授 高橋 圭一 氏	長野市	330 名
	28. 8. 3	文化講演会「自分が変われば組織が変わる」-価値創造のパラダイム-	人と組織リテリ研究所 代表 高野 登 氏	長野市	224 名
北陸	28.10.28	文化講演会 「郵便局経営に役立つお話し」	通信文化協会 参与 清水 初巳 氏	金沢市	120 名
東海	28. 9. 3	年金セミナー 「生涯生活設計セミナー」	社会保険労務士 安江 美和子 氏	名古屋市	87 名
	28. 9. 4	年金セミナー 「生涯生活設計セミナー」	社会保険労務士 安江 美和子 氏	静岡市	18 名
中国	28. 9.10	文化講演会 「ことばの力」=美しい日本語を大切に=	元・文藝春秋 各誌編集長 高橋 一清 氏	広島市	110 名
	29. 1.22	文化講演会「仕事としてのプロゴルファ-の厳しさと楽しさ」	日本プロゴルフ協会 理事 田島 創志 氏	岡山市	280 名
	29. 2. 7	文化講演会「勝てる組織の創り方～キリンビール高知支店の奇跡に学ぶ」	元キリンビール(株) 副社長 田村 潤 氏	広島市	110 名
四国	29. 1.28	文化講演会 「地方からの挑戦」	松山大学女子駅伝部監督 大西 崇仁 氏	松山市	70 名
九州	29. 1.30	文化講演会 「男女における購買行動の違い」	傾聴・ストーリー 代表取締役 日野 佳恵子 氏	熊本市	142 名
沖縄	28.11.30	文化講演会 「高齢者の強みを活かした地域貢献」	沖縄県立看護大学 教授 大湾 明美 氏	那覇市	45 名



## (2) 青少年ペンフレンドクラブ（PFC）への活動支援

### ア 地域交流会活動支援

手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便(株)各支社において開催された「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行った。(5地方本部 計8回 参加者数315名)

### イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク(会員会報誌 毎月1回発行)」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。

読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により毎回約20名へ賞品(レターセット等)と会報「通信文化」を贈呈した。

## (3) 社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を実施した。(6地方本部 計13回 参加者数877人)

## 6 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き日本郵便株式会社等へ賃貸しているほか、湯島の建物については、老朽化に伴う耐震性の問題から解体を行い、平成30年2月目途に新築3階建てとし、1階を協会本部事務室、2・3階を賃貸マンションとすることで、収益向上を目指している。

## 7 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

### (1) 記念品等の贈呈

ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,015人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。

イ 米寿を迎えた個人会員510人に「米寿記念品」を贈呈した。

ウ 協会手帳を配付した(希望者のみ)。

### (2) 「郵政博物館」入館料の割引

会員サービスの一環として、本人及び同伴の家族が入館する場合、入館料50円の割引を実施した。(割引後の入館料 大人250円、小人100円)

### (3) 叙勲祝賀会(会費制)の開催

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、春と秋に祝賀会(米寿祝賀会を併合開催)を開催した。また、北海道、東北、中国、九州及び沖縄地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

### (4) 新年賀詞交歓会(会費制)の開催

東京都内と関東・南関東地域在住の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で1月13日(金)、東海大学校友会館(霞が関ビル35階)において開催した。また、北海道、東北、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

## 8 中西重思・遺児育英基金の管理・運営

長年、郵政審議会委員などを務め郵政事業に貢献された中西重思氏の遺言により、在職中に死亡した郵政関係社員の遺児(満18歳未満の子)育英のために、平成12年10月に中西育英基金(4億5百万円)が設立された。当社がその管理、運営を委ねられ、以後、遺児に対して1人40万円を給付し養育の支えとなってきたところであるが、基金残高が僅少となったことから、平成28年3月末までを対象に申請を打ち切り、同年5月末に給付事業を終了した。

制度発足以来の給付額の累計は、3億7,100万円(669件・対象遺児1,125人(旧給付金額(20万円)支給395人含む。))となった。

## 9 団体傷害保険等の取扱

通信文化協会会員及び郵政グループ社員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【平成28年度における契約状況】

区 別	口・件数	保 険 料
団 体 保 険	62千口	472百万円
団 体 扱 保 険	5千件	243百万円

## 10 会員増加対策

平成28年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、純増目標として、個人会員・法人会員(口数)を合わせた1,100人/口として設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に密着した参与の積極的な勧奨活動体制の強化、また、会員サービスとしての会報の掲載内容充実を図り、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入会員は3,540人となり、対前年度末の個人会員数・法人会員(口数)に対し、1,184人/口(対目標108%)と好調な純増を確保することができた。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	平成28年度末	平成27年度末	増・減
個人会員(人)	60,970	59,852	1,118人増
法人会員(口)	946	880	66口増

(個人会員地方本部等内訳)

区 別	平成28年度末(人)
北海道	5, 264
東北	6, 312
関東	5, 537
東京	4, 852
南関東	1, 950
信越	4, 182
北陸	2, 264
東海	6, 759
近畿	8, 507
中国	4, 660
四国	2, 917
九州	6, 706
沖縄	442
本部	618
合計	60, 970

(参考)

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附(支援)をお願いしており、28年度は2, 170人の会員から総額3, 297, 140円の寄附収入があった。

#### 1.1 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第15回及び第18回理事会において行った。

##### (1) 理事会

###### ○ 第15回理事会(平成28年5月30日)

<議案> 1 平成28年度収支予算書の補正

<議案> 2 平成27年度事業報告

3 平成27年度決算報告

4 特別寄附金の受入れ

5 定時評議員会の開催

###### ○ 第16回 理事会(平成28年6月20日: 書面決議)

<議案> 代表理事の選定

###### ○ 第17回 理事会(平成28年10月3日)

<議案> 1 湯島ビルの新築

2 「資金運用規程」の改正

○ 第18回 理事会（平成29年2月17日）

- <議案> 1 第62回前島密賞の授賞者決定  
2 平成29年度事業計画  
3 平成29年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み  
4 湯島ビルの新築に関する決議の一部変更  
5 「組織規程」の改正  
6 定時評議員会の開催

(2) 評議員会

○ 第9回 評議員会（平成28年6月20日）

- <議案> 1 議長の選出  
2 議事録署名人の選出  
3 平成28年度収支予算書の補正  
4 平成27年度決算報告  
5 理事の選任  
6 監事の選任  
7 評議員の選任

○ 第10回 評議員会（平成29年3月10日）

- <議案> 1 議長の選出  
2 議事録署名人の選出  
3 平成29年度事業計画  
4 平成29年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み

1.2 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、より一層、地方本部における執行体制の強化を図れる本部長等人材の活用・登用を推進している。

また、本部では、文京区の湯島ビルの解体・新築計画については、専門性も高いことから、適切な人材の活用とともに、推進管理していくためには、総務部の中における一財務担当ではなく、臨時の部ではあるが、責任ある態勢とするために「企画財務部」の設置を行った。

さらに、会員確保・会員サービスの観点からも、海外の郵政博物館視察の計画（当面、韓国・台湾）を策定し、郵政事業の歴史探訪への参加者を広く募り、実行していくため、専担の職員の配置を行い、円滑な実施を図っている。

なお、郵政博物館は原則無休の不定期休であるため、休日における管理体制に万全を期すなど社会的要請に応えることとしている。

平成28年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成29年5月

公益財団法人 通信文化協会